

第5回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

第5回日本気象学会ジュニアセッション（以下、「ジュニアセッション2019」）を、2019年度春季大会の4日目（5月18日（土））に、大会ポスター会場（国立オリンピック記念青少年センター）にて、ポスターセッション方式で開催した。ジュニア世代に発表の場を提供する、という社会貢献を目的とし、大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している。

北海道より沖縄県まで9都道府県の16校から34件の発表があり、生徒47名、引率および同行者12名、一般参加者17名の計76名が来場した。控え室にて事前説明や瀬上副理事長による発表認定証交付を行ったあと、

ポスター会場にて高校生同士の発表（40分）と一般会員を交えた発表（60分）を行い、第1回～第4回と同様に多くの一般会員が来場して、熱心な発表と質疑・コメントが交わされた。ポスター発表の内容は、気温や雨の観測、雷といった身近な気象に関するテーマだけでなく、生物気象や流体実験、惑星気象など幅広いテーマに跨がっていた。いずれもよくまとめられていて、レベルの高い発表であった。ポスターセッション後、希望者3名が公開気象講演会を聴講した。

参加者アンケートでは今回も「専門家からのアドバイスをもらえた」、「他校の発表を聞いて勉強になった」という回答が多数寄せられた。このような発表機



第1図 発表の前に、発表者全員の全体写真。



第2図 発表認定証交付の様子。



第3図 ポスター会場での発表の様子。

会の活用希望は毎回非常に高く、「楽しかった」「またやりたい」との回答も多かった。全体として好評だったといえ、「大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心を高める」という目的がよく達成されていることが覗かれる。なお、来年度は春季大会が平日開催となるため、参加の可能性についてアンケート項目に加えたところ、教員・生徒ともに平日でも参加したいとの回答が多かった。ただし、中間テストと重なるため日程を検討して欲しいとの意見も複数あり、日程と開催方法については、今後、検討を要する。

開催にあたっては、昨年度に引き続き、公益社団法人全国高等学校文化連盟に加えて、文部科学省から後援をいただいた。また、昨年度より小倉義光・正子基

金からの補助を得て、遠方からの参加者に対する旅費の助成や、参加賞の配布も行われている。今年度は、申請のあった2校への交通費助成を行った他、参加賞として放射温度計を各校に1台ずつ配布した。学習指導要領の改訂により「総合的な探究の時間」が必修となったこともあり、ジュニアセッションのような発表の場には、今後ますます参加が促進されると考えられる。ジュニアセッションを楽しみにしている一般会員も多く、今後も継続的に開催して、ジュニア世代に気象学の裾野を広げて行きたい。これまでの開催状況は気象学会ホームページに掲載している。

(https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session)